

□7月28日礼拝説教(短縮版)「託された襁(たすき)を…」
イザヤ6:1～8,ヘブライ12:1～2 古賀博牧師

神は「教会」に礼拝を共に捧げ、親しく交わり祈りを一つとする使命を備え、またこの世の生活において信仰の証を立てながら世の人々と助け合い、励まし合って隣人愛に生きていく、そうした使命を与えてくださっています。山口信愛教会においても出発時から今日までの133年間、神によって呼び集められた人々が福音を感謝して受け入れ、教会内外で愛の業を為し、山口に少しでも神の御国を建てていこうと祈り、奉仕をつづけてきました。

神が「誰を遣わすべきか」と問われた際、イザヤのようにはっきりと応えるのは困難なことです。しかし山口信愛教会で奉仕した13年の間、誠実で真摯な信仰心で自らの力の限り、賜物を精一杯に輝かせて主を証し、人との関わり、奉仕に生きた方々との触れ合いを与えられました。そうした方々との出会いを通じて、私もまた私なりに「わたしがここにおります。わたしを遣わしてください」と応答していく、そんな信仰に歩むようにと大いに励ましを与えられたのでした。

ヘブライ11章には、旧約に証言されている多くの信仰の先達たちに私たちは囲まれて、支えられているのだと励ましが語り継がれています。この箇所を、駅伝をイメージして読んでいる人たちがいます。「おびただし証人の群れ」とは、聖書に登場する先達のみならず、先に定められた信仰の人生を走り切って召天された方々だと言うのです。多くの苦難・困難を乗り越えながら目的地を目指して、賜物を輝かせて信仰の道筋を走り切った、そして今や天に籍を移した先達たちは信仰の襁を託して、後進の私たちが続きの区間をしっかりと走るように励まし、天から祈りつつ見守っているのだと。

ここに集ったどなたも漏れなく神の招きに与っています。まずこの私が神に託された区間を、先達たちの祈りの応援を心に響かせながら信仰によって走る。そして信仰の創始者また完成者である主イエスを見つめながら、同じように神に招かれている兄弟姉妹たちと共に精一杯に走り、次の人に確実に信仰の襁を渡していかなければなりません。信仰を継承し、この世界全体に神の恵みが満ち、神の国が実現するように、地上にあっても、天上に昇っても先達たちと一緒に祈り続けたいと思っています。
(終)